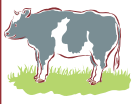


農報

術・資材などの
けします。

畜産



牛異常産ワクチンの接種について



畜産

梅田 智章
下島営農指導センター
080-1729-1620

4月に入り、吸血昆虫(蚊)が媒介する時期になってきました。牛においては吸血昆虫より早産・死産等の異常産を引き起こすウイルスの感染が考えられるためワクチン接種の必要があります。地区によって実施時期が異なると思いますが、損耗を防ぐため忘れずに接種をうけましょう。

また、異常産を引き起こす疾病を右記に記載します。

疾病名	症状
アカバネ病	流早死産、四肢の関節湾曲および大脳欠損をおこす
チュウザン病	虚弱、起立不能、神経症状、大脳および、小脳欠損をおこす
アイノウィルス感染症	流早産、四肢・脊椎の湾曲、小脳形成不全をおこす
牛流行熱	呼吸器症状が主要な症状 死産を起こすことがある
イバラギ病	水、食べ物が飲み込めなくなる 死産を起こすことがある

以上の疾病につきましては、牛異常産三種混合ワクチン・牛流行熱イバラギ病混合ワクチンの接種が必要となります。

野菜



野菜類防除基準



野菜

寺田 到
上島営農指導センター
090-6897-7996

※適用作物名が『野菜類』となっており、家庭菜園にも比較的使いやすい薬剤です。春先から虫、病気の発生が多くなりますのでご注意ください。

I 病害虫防除

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	灰色かび病		立枯病		黒斑病、斑点細菌				立枯		灰色かび病	
	軟腐病、べと病		うどんこ病		軟腐病、べと病				さび病		さび病	
虫害	アブラムシ・ハダニ											
	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、オオタバ											
病害	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月											
灰色かび病	ボトキラー水中和剤 1000倍 使用回数制限なし 発病前											
斑点細菌病	コサイドボルドー 1000倍 使用制限なし											
黒斑病	Zボルドー 500倍 使用制限なし											
軟腐病	[薬剤名不明]											
うどんこ病	カリグリーン 800~1000倍 回数制限なし 収穫前日まで (トマト・ミニトマトは除く)											
さび病	硫黄粉剤50 3kg/10a ジーファイン水中和剤 1000倍 使用制限なし 収穫前日まで (なすは除く)											
アブラムシ	サンクリスタル乳剤 300倍 収穫前日まで (なす・トマト・ミニトマトは除く)											
ハダニ	硫黄粉剤50 3kg/10a アカリタッチ乳剤 1000~3000倍 使用制限なし 収穫前日まで											
アオムシ	デルフィン顆粒水中和剤 1000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期											
コナガ	ゼンターリ顆粒水中和剤 1000~2000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期 (はくさいは除く)											
ヨトウムシ	トアローフロアブルCT 1000~2000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期 (※オオタバコガ500~1,000倍)											
オオタバコガ	※上記の剤は同一種類剤(BT剤)のため、散布回数は、総計で4回まで											

- 病害防除
- 降雨の後に防除
 - チッソが効いて軟弱な場合には注意
 - 温度が下がってきたら、べと病の防除
 - 乾燥してきたらうどんこ病の防除
 - 雨が多い場合は細菌病、カビ病ともに予防剤散布
 - 風が良く当たるところでは細菌病が多い(防風ネット利用)
- 虫害防除
- 強い風が吹いたら、虫が増える
 - 乾燥したらダニが増える
 - 雨が多いと、全般的に虫は少ない
 - 虫が見えたら防除。7日~14日後に卵や蛹が成虫になるのでまた防除。

温度条件

降雨・湿度条件

生育状況

生育環境の観察+防除

やや高温・乾燥・風で多発、降雨で減

※ 防除薬剤は「薬剤の種類」、「希釈倍数」、「散布液量」、「散布回数」に注意し、基準を厳守する。

水稻



水稻農作業メモ



水稻
吉田 義文
指導販売部
0969-22-1105

水田除草剤の適正使用

農薬は、あらかじめ品質・効果・残留性などが、基準によりチェックされ、問題がないと判断された薬剤が農林水産大臣の登録を受け、販売・流通しています。

水田除草剤として製品に貼付されているラベルには効果や薬害、残留性等から設定された使用基準や使用上の注意事項が記載されています。その内容を遵守して使用してください。薬剤の特長や散布方法を把握し効率よく利用し、特に散布時や散布後数日間(7日程度)の水管理には十分注意を払う必要があります。湛水状態を保つことは、安定した除草効果が得られるばかりでなく水田水系外への除草剤成分の流出を防止するためにも重要となります。

散布した除草剤の有効成分は水田土壌の表層に吸着されて除草効果を発揮します。安定した効果を得るためには、この処理層を壊さない水管理が大切です。落水や漏出を防ぎ、掛け流しを行わないようにしましょう。

また、水が少なくなり田面が露出するとその部分の除草効果が低下しますので減少分をその都度補充してください。

有効茎数の確保と中干し

除草期間が終了したら有効茎数を確保するために暖かい日中は浅水管理で分けつの促進に努めてください。1株の茎数が18本程度確保できたら中干しを行ってください。(平年では5月20日頃より)水管理を容易にするために、中干し前の土が軟らかい時に溝切りを行いましょう。

中間施肥病害虫防除

中干し前に、茎を丈夫にするために珪酸加里を10aに20～30kg施用してください。

補植苗は病害虫の発生要因となりますので、早めに取り除きましょう。

また、畦畔の除草による耕種的防除に努めましょう。

果樹



4月の柑橘園管理



果樹
後藤 昇
下島営農指導センター
080-1729-1631

1月2月と寒い日が続きましたが3月に入り、降雨とともに気温も上昇してきた様に感じます。日中気温が高い日もあるため庫内の温度、湿度の管理が今後の貯蔵みかんについては注意が必要となります。

露地栽培のみかんでは3月に十分な降雨があった為、発芽も順調に進んでいく事が予想されます。4月では発芽に伴い防除・枝梢管理(着花確保)が今後の管理のメインになります。樹を良く観察し、適期管理に努めましょう。

1. 河内晩柑の収穫とその後の管理

適期の良い冷暗所で予措を行い、ポリ個装を実施しましょう。また、今後は気温の上昇に伴い庫内の温度も上昇しますので、朝夕の換気に努め貯蔵管理を行いましょう。

品種名	区分	収穫時期	予措期間
河内晩柑	後期採取	4/1～4/30	7日程度(2%)

2. 病害虫防除

温州みかんについてはそうか病が多い園では4月の下旬に再度、デランフロアブルを1000倍で散布を行いましょう。

項目	散布時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	備考
温州みかん	下旬	そうか病	デランフロアブル	1000倍	そうか病が多い園では4月下旬に再度

※中晩柑でかいよう病が心配される園ではコサイド3000を2000倍の加用クレフノン200倍で散布しましょう。

3. 施肥

○通常タイプ

対象品種	施肥時期	肥料名	10a当たりの袋数
全品種	4月上旬	硫酸マグネシウム	2袋
早生・中熟・普通温州	4月上旬	熊本果樹肥料10-7-4又はひのくに果樹9-3-3	5袋
テコポン	4月上旬	熊本テコポン8-3-3	3袋

4. 施肥

樹勢が落ちている場合貯蔵養分の不足が考えられますので、発芽～新梢伸長期はチッ素系の葉面散布を行って下さい。また、緑化が遅れそうな場合は、マグネシウムの葉面散布を行いましょう。

目的	資材名	希釈倍数	備考
樹勢回復・樹勢維持	アミノジューシーN14	500倍	いずれかをご使用下さい
	神協スピリッツ	500倍	
緑化促進	葉面マグ	200倍	